



様式第4号（第7条関係）

令和8年8月25日

東かがわ市議会議長

工 藤 正 和 様

東かがわ市議会議員

（会派・個人・その他）

氏名 小 松 千 樹

行政視察等報告書

1	日 時	令和8年7月31日	
2	参加者	渡邊 堅次、 小松 千樹	
3	目的等	内 容	場 所
		地域未来ビジョン創造セミナー	東京都中央区 (ビジョンセンター東京京橋)
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照	
6	費 用	37,890円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

「地域未来ビジョン創造セミナー」特別講演

「プロスポーツによる地方創生～価値をどのように高め地域に活かすか～」

静岡ブルーレヴズ株式会社 代表取締役社長

一般社団法人静岡県ラグビーフットボール協会理事 山谷 拓志氏

〈講演内容〉

行政や自治体には、プロスポーツチームとコンテンツと、その箱（スタジアム）が一体となったものを、もっと高く評価してほしい。スポーツチームは作りたくても作れない。スポーツチームというのは歴史や史跡と同様に、ある人がいて、そこに人やお金が集まり、様々なタイミングや偶然が重ならないとできない。税金をかけて施設はできてもチームはできない。かけがえのないもの、宝物であり財産である。もちろん強い弱いはあるが、チームをどんどん強くして、地域が支援していくことで、その価値が倍増していく。作りたくても作れないブランドができる。ぜひ自治体の皆さんも、地元のスポーツチームを有効活用しつつ、そのコンテンツがより盛り上がるようなサポートをしてほしい。

① 講演で評価すべき点

スポーツそのものの価値を分かりやすく2つに分けて考えている。「する」と「みる」である。日本が遅れているのは、とにかく「みる」価値である。「みる」価値は、スポーツを「する」こととは全く異なる性質であり、エンターテインメントコンテンツというべきである。その価値をどう活かすか、それをどのように経済として、要するに換金化をして、市場規模を再生産していくかということが、日本には今1番欠けている視点ではないか、ということ。

② 東かがわ市で参考にする上での課題（現在、今後）と思われる点

条件が整わなければ出来ないし、スポーツチームというのは歴史や史跡と同様に、ある人がいて、そこに人やお金が集まり、様々なタイミングや偶然が重ならないとできない。税金をかけて施設はできてもチームはできない。特にプロスポーツに対する条件は厳しいと思う。

③ 感想・今後の取組

プロスポーツによる地方創生は条件が整わなければいけない。

「地域未来ビジョン創造セミナー」専門講演

「最近の国際情勢と日本の安全保障」

東京大学先端科学技術研究センター准教授 小泉 悠氏

〈講演内容〉

小泉氏は、自身の妻がロシア人であるという個人的な背景から複雑な心境を抱えつつも、「暴力を用いて政治的目的を達成しようとすることを拒絶してきた 20 世紀以降の人類社会の原則」を最重視している。そのため、ロシアによるあからさまな侵略行為に対しては、徹頭徹尾批判的な姿勢を一貫して示している。

そして、

1. どれだけの人が死んだのか？

無機質な統計データに隠された、民間人や前線の兵士たちの過酷な現実を直視し、ロシアの戦死者が特定の地方出身者や貧困層に偏っている実態などを暴いている。

2. なぜ終わらないのか？

「わずか 3 日で終わる」とされた作戦が、なぜ 4 年以上の長期戦・消耗戦に至ったのか、プーチン政権によるウクライナへの見くびりや、ウクライナ側の想定以上の高い士気・結束力について述べている。

3. 世界の中でロシアはどう変化したのか？

北朝鮮、イラン、インドなどとの武器取引やエネルギーをめぐる関係性の変化を捉え、トランプ政権の動向や、揺れるヨーロッパ（NATO）の核抑止の再構築について論じている。

4. 日本はいかにロシアと向き合うべきか？

ユーラシアの反対側の出来事でありながら、米国の抑止リソースが欧州へ分散することは、東アジア（中国・北朝鮮）に対する抑止低下に直結すると警告し、「力による現状変更」を国際社会が容認すれば、将来的に日本が依拠すべき国際秩序そのものが崩壊するため、日本がウクライナを支援し対露制裁を続けることには大きな現実的メリットがあると主張している。

① 独自性、先進性などの観点で評価すべき点

ウクライナにおける凄惨な状況を題材として、戦争という営みやロシアという国の本質に迫ろうとする試み。確かなデータと長年培われた豊かな見識に基づく、実証的で鋭い問題提起。この戦争の意味合いや我が国のあるべき姿勢を語るくだりには、人間や社会というものに対する深い洞察を感じさせられた。

② 感想・今後の取組

開戦から 4 年を過ぎた第二次ロシア・ウクライナ戦争について、軍事アナリストの小泉氏に現状を詳しく説明していただいた。この戦争でどれだけの犠牲者が出て

いるのか、何故これほど長引いているのか、戦時下のロシアの状況、世界の中でのロシアの立ち位置の変化、日本はこの戦争にどう向き合うべきか、について語られた。欧州ほど深刻ではないけれど、やはりこの戦争は日本にとって対岸の火事ではない。日本がどのように関わるかは難しいと思うが、ロシアの武力による領土の拡大だけは許してはならないと思う。